

鉄砲洲神社素読論語 解説

(平成 25 年 9 月 13 日)

【八】子 衛の公子 荊を謂う。善く室に居る。始めて有るときに曰く、苟かも合うと。少しく有るときに曰く、苟かも完しと。富んに有るときに曰く、苟かも美しと。

孔子が 55 歳の頃に、70 歳をだいぶ過ぎている高齢の方、衛の公子荊という人物の批評をしました。人の欲は限りが無いけれども、公子荊は素晴らしいと褒めている話です。

公子荊は、よく家を治めた人である。始めて家を作った時には、十分に家財道具があるのではなくて、一応家の中に家財道具があるというぐらいの時に「私はこれ以上要らない」という言い方をした。これは良いことだ。少し家財道具が集まってきた時に「多少は揃ってきましたが、でももう要りません」と言いました。「富んに有る」というのは、「これで十分だ、これ以上は要らない」ということで、誰が見ても家財道具が揃ったと思うぐらいの時に、「少々よくなった」と言いました。

これは人の慾について話しています。私の父親が石屋だったのですが、お墓を考えますと、石屋の父親の科白では「立派なお墓を作ると、子孫が困り墓守が大変だ。なるべくお墓は質素なものが良い、豪華で華美なものを作ると次の代、または次の次の代ぐらいで大体その家は途絶えるもので、あまり立派なものは作らない方が良い」という会話をしたことがありました。

今回のアベノミクスで、安倍さんが色々な情報を入れて判断をしない方が良いと思います。「8%に上げると判断した」と出ていますが、あそこら辺はどちらにとって良いか判断に苦しむところで、もっともっと上げたいけれど、取りあえずここで止めておくという風に捉えると、この次の 10%は難しいと思います。その逆もありです。

【九】子 衛に適く。再有 僕たり。子曰く、庶いかなと。再有曰く、既に庶し、又何をか加えんと。曰く、之を富まさんと。曰く、既に富めり、又何をか加えんと。曰く、之を教えんと。

孔子が衛に行った。その時に再有が御者になって車を走らせました。孔子が衛の国に入って、その民を見ると「何と人の多いことなんだろう」と嘆息をした。そうすると再有が「これだけ多いのですから、これ以上ここの国民に何をすればよろしいのでしょうか」と質問をしました。「之を富まさんと」答えました。今で言うと「安心安全」です。かなり世

情が不安だから、安心して安全にこの国を変えていけばよいのではと。冉有が言うには「安心安全ができた後には、どうしましょう。もう終わりでしょうか」と聞いたら、「人間として必要な道を教えなければいけない。これからは教育である」という言い方をしています。

この間、「山田方谷のシンポジウム」が二松学舎であったのですが、維新の会の議員の代表者が来ました。「これからの日本は教育が必要である、日本はこれだけ荒廃をしたのだから教育をしなければいけません。山田方谷の考えた教育を今こそ実行しようではありませんか」ということを盛んに言っていました。いつの時代でも今の若者は、どうにもならん、教育が必要であるということの色々と言うのだなと感じます。

【十】子曰く、^{いやく}苟も我を用うる者有らば、^{きげつ}期月のみにして可なり。^{さんねん}三年にして成ること有り。

孔子は、もう自分が用いられない、世の中に出ることが無いなと思いながら、まだまだ諦めきっていないで、自分がもし世の中に採用され、または内閣総理大臣で迎えられることがあれば、何とか国らしく発展させる力量があるのだと思っています。3年貰えれば理想的な国家ができる。誰か私を使ってくれる者はいないかねと言う風に愚痴を言っています。

アベノミクスの成功に関してはこの間、矢野弾先生が批評してしまして「第三の矢を放つ。それでアベノミクスが成功するかしないかについては、3ヶ年という期限を切ってやれば何とかなるだろう」

田中角栄が失敗をした時に、福田赳夫を採用したことがあるのですが、福田赳夫が「日本国中に高速道路を張り巡らせて活性化をしようと言ったのを中断して貰いたい。中断して私が思うものをやれば、3年あればできる」という事を田中角栄に言い、それを田中角栄が採用した。福田赳夫が言ったのは「3年3ヶ月で何とかなるんだ」それを安倍さんが参考にすれば3年と言うはずなので、3年と区切るのが良かろうと。

3年というのは、人間の気持ちの中で5年だと長いし、1年だと短い。だから3年だとその先生は言っておられましたが、3年というのは、程々、何をやるにしても3年ぐらい。人様のお付き合いにしても3年というのが、良い頃合いだと理解して終了とします。(敬称略)